第８回コーラスフェスティバル in 和光に出演する

標記演奏会が、2018 年 4 月 15 日(日)和光文化センター　サンアゼリア大ホールにおいて、18 団体が参加して開催された。(参加団体及び演奏曲については、別添プログラム参照)

志木グリークラブは、初谷敬史先生の指揮で、「I‘ve　Been　Wulkin‘　On　De　Railroad(線路)」「Steal　Away」「Ride　the　Chariot」を演奏した。(男声合唱 3 団体の合同演奏では、男声合唱組曲「柳河風俗詩」より、柳河を演奏した)

当日は、天候にも恵まれ(午前中雨天の予報が外れた)、女声合唱、男声合唱、混声合唱と各部門の団体が集い、日頃の練習の成果を発表した。各団体とも、特徴を生かし纏まったステージになっていた。

志木グリークラブが 1 曲目に演奏した「I‘ve　Been　Wulkin‘　On　De　Railroad(線路)」は、団創立時から歌っているが、今回は初谷先生のご指導で、黒人霊歌風の曲想で歌うことになった。
跳ねる感じで歌わないで、4 章節毎に、ノンブレスを基本に、母音を長く、べったーとした感じで歌う。冒頭の章節は、P で入り、徐々に mp、mf、f と機関車が近づいてくるように音量を上げて歌う、また、中頃の pp は、極端に押さえて、強弱のメリハリを付けて歌い、章節内で伸ばすところは、クレッセンドを十分利かして、更に強弱を強調して歌うよう指導を受けた。今まで、この曲は何度も歌ったが、少し惰性に流されて歌っていた感じがする。今回、改めて初谷先生の曲想作りに触れて今までにない「I‘ve Been　Wulkin‘　On　De　Railroad(線路)」になったと思う。

この曲の原曲は、1863 年から始まったアメリカ大陸横断鉄道建設に携わったアイルランド系の工夫達によって歌い始められたもので、線路工夫の過酷な労働を歌った民謡であり労働歌である。

日本では、1962 年、ＮＨＫ“みんなのうた“で「線路はつづくよどこまでも」として紹介され、それ以降ホームソング、童謡として愛唱されるようになった。

余談であるが、原詩にあるダイナ（Dinah）は、列車の名前と女性の名前の両方の意味に用いられて、この労働歌は、猥歌（わいか；性風俗に関連した一般的に卑猥な内容の歌詞を含む音楽、俗謡のこと。春歌、艶歌ともいう）として読むこともできるらしい。

2 曲目には、黒人霊歌「Steal　Away」を演奏した。この曲は、2014 年 7 月、第 27 回サマーコンサートで演奏したことがある。

ここで、Steal　Away の歌詞と訳を見てみよう。

1.	1.
Steal away	こっそり
Steal away	こっそり
Steal away to Jesus	こっそりイエス様のもとえ　逃れてゆこう
Steal away Steal away home	こっそり　こっそり　ふるさとへ逃れてゆこう
I ain’t got long to stay here	もう　ここには　いなくてもいい
My Lord He calls me	わが主なる神様が呼んでいる
He calls me by the thunder	神様が　雷で呼んでいる
The trumpet sounds within a soul	トランペットが　私の魂の内から　鳴り響く
I ain’t got long to stay here	もう　ここに　いなくてもいい

2.	2.
Steal away	こっそり
Steal away	こっそり
Steal away to Jesus	こっそりイエス様のもとえ 逃れてゆこう
Steal away Steal away home	こっそり こっそり ふるさとへ逃れてゆこう
I ain't got long to stay here	もう ここには いなくてもいい
Green trees are bending	青い木が たわんでいる
Poor sinners stand a trembling	あわれな罪人が 震えながら 立っている
The trumpet sounds within a soul	トランペットが 私の魂の内から 鳴り響く
I ain't got long to stay here	もう ここに いなくてもいい

（訳：Wikipediaによる）

“Steal Away“は、奴隷達が“hush harbor“（※現在のブラックゴスペルのルーツである Spirituals ＜黒人霊歌＞が生れた場所）で meeting が行われることをお互いに知らせるために使った曲として有名である。また、夜中に hush harbor に集まり礼拝をした時には、彼らの信仰するイエス・キリストへ Steal away する(自分の全てを委ねてイエス・キリストと共にいる)という意味で歌われていた。

「Steal Away」を演奏するにあたって、初谷先生から次のような曲作りのご指導があった。
歌い出しのテノール１の“steal away“は、囁くように消え入るように抑えて入り dim する。徐々にクレッセンドし、さびの部分は、Piu mosso で今までの倍のテンポで、1 拍目と 3 泊目にアクセントを置き、メリハリを付けて歌い、Tempo Ⅰで終わる。言葉のタイミング(リズム)に集中し、歌詞の内容を理解し、イメージして歌うように指導を受けた。(果たしてそのように歌えたかどうか自信はないが・・・)

3 曲目の「Ride the Chariot」は、今回演奏した曲の中で最も時間をかけて練習した。なにぶん、今まで歌ったことが無い曲で、早口言葉のようなテンポで訛りを入れて歌わなければならなかった。
この曲は、一般的には、テノールのソロと合唱が兼ね合いで歌うことが多いが、私達は、ソロの部分を２グループに団を分けて歌った。しかも、同じ歌詞を何度も繰り返すので途中でどこを歌っているのか分からなくなることは、度々で、歌詞と繰り返しを覚えるのにかなり苦労した。
初谷先生のご指導内容は、曲全体を跳ねないで滑らかに歌う。歌詞を繋げて歌い、言葉を抜かない。
少しブッキラボウで乱暴(例えば Oh yes)に歌う。アクセントと強弱、rit e cresc、p と f の対比をクリアーにするであった。

当初、楽譜が配られた時、「これは大変だ。果たして、我々で歌えるのかな」と殆どの団員が自分たちの歌唱力、記憶力に疑心暗鬼になった。団員の平均年齢が、7×歳となり、歌詞を忘れる音を忘れるは、日常茶飯事で、2 歩歩くとさっき聞いたことを忘れている。しかし、この曲をマスターし、皆さんに聴いていただくためには、初谷先生の“ハツガイマジック“を味方に付け、夢に出て来るほど何度も何度も繰り返し練習するほかはないと腹を括った。練習を重ねてくると団員の顔に「もしかすると歌えるのではないか」少し自信が出てきた。本番では、“本番に強いグリークラブ“のジンクスが今回も発揮できたようで、まずまずの出来映えであったと自画自賛している。

今回の演奏会では、アカペラで演奏した団体は、志木グリークラブだけであったので、演奏後、複数の来場者(知り合いの方？)から、過分のお褒めの言葉をいただいて、勇気付けられている。

（２TENOR；和氣 敏夫記）

第8回
コーラスフェスティバル
in 和光

2018年4月15日（日）　13：30開演

和光市民文化センター　サンアゼリア大ホール

主催:コーラスフェスティバル in 和光　　助成:（公財）和光市文化振興公社
後援:和光市教育委員会　　連絡先:　0484-479 - 0380（脇田）

【　第１部　】

1	MF グリークラブ和光	みちとおく　イタリア民謡 自然における神の栄光　作詞/ゲレルト　作曲/ベートーヴェン 宇宙戦艦ヤマト　作詞/阿久悠　作曲/宮川泰	指揮　布施忠良 Pf　鈴木康子
2	Dolce 合唱団♪	ほらね、　作詞/いとうけいじ　作曲/松下耕 You Raise Me Up　作詞・作曲/グラハム＆ローランド	指揮　阿部朋子 Pf　田島寛子
3	アンサンブル　フェリーチェ	砂山　作詞/北原白秋　作曲/中山晋平 波浮の港　作詞/北原白秋　作曲/中山晋平	指揮・Pf　武石玲子
♪	合同演奏　2&3&4	春の日の花と輝く	
4	女声コーラス　彩音	ずいずいずっころばし　作曲/平井孝三郎 ウイーンわが夢のまち　訳詞／あらかわひろし　作曲／ズインチンスキー	指揮・Pf 小笠原貞宗
5	和光混声合唱団	「花の風」より　コスモス　作詩/星野富弘　作曲/なかにしあかね 「花に寄せて」より　たんぽぽ　作詩/星野富弘　作曲/新実徳英 「月の角笛」より　ほんとにきれい　作詩/ロセッティ　訳詩/吉田映子　作曲/木下牧子	指揮　宮本英一郎 Pf　近藤香織
6	コール・リボン	「オズの魔法使い」より　虹の彼方に　作曲／ハロルド・アーレン 「女声合唱のためのヒットメドレーYUME」より 夢で逢えたら　作詞・作曲　大滝詠一 虹と雪のバラード　作詞/川邨文一郎　作曲/村井邦彦 夢であいましょう　作詞/永六輔　作曲/中村八大	指揮　宮地多美子 Pf　武井千栄子
♪	合同演奏　6&7	三百六十五歩のマーチ	
7	シャンテ・カフェ	花のまわりで　作詞/江間章子　作曲/大津三郎 ムーン・リヴァー　作詞/マーサー　作曲/マンシーニ 歩いてゆこう　作詞/きくよしひろ　作曲/小宮路敏 ビリーブ　作詞・作曲/杉本竜一	指揮　布施忠良 Pf　鈴木康子
8	アンサンブル　SOLA	芭蕉布　作詞/吉川安一　作曲/普久原恒勇 「バイエル」より ピンポン　作詞/早野柳三郎 君といつまでも　作詞/岩谷時子	指揮　脇田美保子 Pf　小室緑
9	イル・カント・デル・クオーレ	「水のいのち」より 雨　作詞/高野喜久雄　作曲/高田三郎 寺山修司の詩による6つのうた「思い出すために」より 種子　作詞/寺山修司　作曲/信長貴富	指揮　前中榮子 Pf　宮崎香織

10	混声泉コーラス	「いつの日か」より　汽車の歌　編曲/源田俊一郎 「みどりの風に」より　おもい 作詞/貞松朋子　作曲/源田俊一郎	指揮　岩国弘文 Pf　山崎愛
♪	合同演奏　5＆9＆10＆11＆17	混声合唱組曲「蔵王」より　早春	

＊＊＊　休憩　＊＊＊

【　第２部　】

♪	全員合唱　会場の皆様とご一緒に	ふるさと	
11	志木混声合唱団	ラシーヌ讃歌　作詞/ラシーヌ　作曲/フォーレ 童謡・唱歌メドレー「春」　室伏正隆編曲による 春の小川　/　朧月夜　/　アメフリ	指揮　室伏正隆 Pf　山崎愛
12	ドン・キホーテ男声合唱団	男声合唱による10のメルヘン「愛する歌」より ロマンチストの豚　作詞/やなせたかし 海と涙と私と　作曲/木下牧子 地球の仲間	指揮　河田修朗 Pf　古郷由利子
13	アンサンブル　バカラ	「気まぐれなエッセイ」より 手紙(アルビノーニ)　少年(モーツァルト) おばあさんのタンゴ　作詞/北博　作曲/服部公一	指揮　脇田美保子 Pf　清水孝江
14	クリスタルハーツ	星影の小径　作詞/矢野亮　作曲/利根一郎 リパブリック讃歌　アメリカ民謡	指揮　脇田美保子 Pf　小笠原貞宗
15	コール・ソアール	今日は朝から雨 作詩/星野富弘　作曲/なかにしあかね 片恋　詩/北原白秋　曲/岡部富士夫	指揮　武かほる Pf　利根川正子
♪	合同演奏　8＆13＆14＆15＆16	オホーツクの海	
16	女声合唱団　翠声会Ⅰ組	心の瞳　作詞/荒木とよひさ　作曲/三木たかし 未来へ　作詞・作曲/玉城千春	指揮　海藤晴子 Pf　小島知恵
17	朝霞混声合唱団	心のなかで　作詞/野村英夫　作曲/田中達也 混声合唱とピアノのための「花に寄せて」より たんぽぽ　作詩/星野富弘　作曲/新実徳英	指揮　坂本恒太 Pf　宮越美雪
18	志木グリークラブ	I've Been Wulikin' On Railroad　アメリカ民謡 Steal Away　黒人霊歌 Ride the Chariot　黒人霊歌	指揮　初谷敬史
♪	合同演奏　1＆12＆18	男声合唱組曲「柳河風俗詩」より　柳河	
♪	全員合唱　会場の皆様とご一緒に	緑のそよ風	